



研究の ハイライト

知識基盤社会を担う・実践的学術の拠点形成する

研究企画経営会議主査

宇高義郎

工学研究院研究の2006年度の研究活動について報告いたします。

2006年度には飯田学長から「横浜国立大学の目標と目標達成のための指針」が提示され、その中で「人類の福祉と社会の持続的発展に貢献するために「実践的学術の拠点」となる」ことが本学の目標の主要な一つとされています。また、近年の国立大学の法人化に伴って、教育、研究に加えて第3の大学の使命として社会貢献を行うことが重要になってきていることは周知の通りです。

工学研究院ではこのような背景を先取りする形で、異分野の研究交流を主とする4研究テーマからなる「学際プロジェクト研究」を立ち上げました。いずれも次の時代を切り拓く夢とそれを実現する可能性を秘めたプロジェクトであります。昨年の本誌にその中間評価結果を掲載しました。いずれも学外の専門家と研究企画経営会議のメンバーからなる評価委員会により高い評価を得ております。それらの第1期学際プロジェクト研究期間の5年間で今年度にて完了しました。それに対応して、新たに2007年度から5年間の計画で開始される第2期学際プロジェクト研究の募集を行い、6つのプロジェクト研究の立ち上げを予定しました。それらはいずれも先進的な内容を活発に進めている研究が融合したテーマの下に、複数の教員が協力してプロジェクト研究を推進するものであります。工学研究院を代表する分野融合型の研究として更なる発展が期待され、

社会への貢献とともに本学の実践的学術の拠点形成に資することが期待されます。

文部科学省の21世紀COEプログラムに採択された「情報通信技術に基づく未来社会基盤創生」が2002年より活動を続け2006年度で完了いたしました。第1期学際プロジェクト研究の一つでもある本COEプログラムの継続的な発展を図るため外部機関との連携による「横浜国立大学未来情報通信医療社会基盤センター」が全学組織として活動を続けており、本学における医療情報通信技術の益々の発展が期待されています。また、2006年春に、「よこはま高度実装技術コンソーシアム」が設立され、エレクトロニクス分野における材料・電子部品・モジュール化・組立などにわたる統合技術である実装技術をベースに、かながわの産業活性化、実装技術者の実践教育、実装技術の国際展開などを目的に活動が展開されております。

工学研究院では、今後とも、従来からの大学の使命である自律的で自由な個人研究を継続することにより21世紀知識基盤社会の形成に役立つこと、および社会貢献を目指したプロジェクト型研究の充実を目指してまいります。さらに、現在ここにあげた以外にも大型の外部資金を得て研究推進中のプロジェクト等が多数あり、その一部をこの研究ハイライトに掲載いたしました。また、工学研究院所属の全教員の研究情報は、大学のwebsite内の研究者総覧でご覧いただけます。